\*下記の太字のところを一緒に声を合わせましょう。 \*座席(ざせき)とマスクはご自由(じゆう)にどうぞ。

2024年 3月 3日 主日礼拝 (10:15) 司式: 坂田長老 奏楽: 村上

≪神のみ前に近づく≫

前 奏

序 詞(ヴォタム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。

アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の 交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。 アーメン。

讃 美 歌 307-1節(ダビデの子、ホサナ)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、新しい月の歩みを与えて、礼拝へと招いてくださったことを感謝します。この教会に関わるすべての方々のこの月の歩みを守り、ご家族を含め、祝福を豊かに注いでください。

主よ、あなたのみ苦しみが私たちを救い出すためであったことを覚えます。その私たちの罪と愚かさをざんげします。聖霊を豊かに注ぎ、赦しと癒しを与え、信仰を増し加えて、良き知恵と力を注いでください。元気に生きて行けますように。

主よ、混沌とした状況が続いています。私たち に為すべき業を示し、癒しの道を与えてください。 この世界に良き交わりを取り戻させてください。

「わが子よ、わたしの知恵に耳を傾け、 わたしの英知に耳を向けよ。そうすれば、 あなたは唇(くちびる)に慎(つつし)みを守り 知識を保つことができる。」 (箴言 5:1~2) \*しばらく黙祷の時をもちます。

主よ、私たちの心と体を生き返らせ、喜びで満たしてください。御名によって祈ります。アーメン

讃 美 歌 32 (キリエ) =座ったまま

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

\*主の赦しと慰めの言葉をお聞きください。

アーメン。

讃 美 歌 436-1~4節(+字架の血に)

≪神のみ言葉の宣教≫

聖 書

**詩 編 4編 3~6節** (旧p837) これは神の言葉です。

神に感謝します。

**ルカによる福音書 1章 18~25節 (新p99)** これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り(司式者)

讃 美 歌 301-1~3節(深い傷と流れる血に)

説 教 『ルカ④ — 沈黙の意味』

祝福の祈り

武田 真治 牧師

≪サクラメントと神への応答≫

讃 美 歌 441-1~4節(信仰をもて)

聖 **餐** 式 **聖餐の意味/聖餐の祈り/陪餐/感謝の祈り** 配餐: 羽倉 保坂 相浦 飯田各長老

讃 美 歌 79-1~2節(みまえにわれら)

信 仰 告 白 (ニケア信条=讃美歌 93-4-2)

献 金 奉仕者:岩井 岩井

とりなしの祈り(司式者)

主の祈り 93-5 =ともに祈りましょう

報告

讃美歌 91-1節(神の恵みゆたかに受け)

祝 祷

武田 真治 牧師

後 奏 報告と退場

受付: 西尾 森本 礼拝: 保坂長老

### ◇本日の礼拝と集会

- ・本日礼拝にて「聖餐式」を執行します。礼拝後す ぐ「3月誕生者祝福」を祈ります。どうぞ。
- ・礼拝前に日曜学校礼拝、聖書輪読会と求道者会を 持ちます。礼拝後、お茶の会と牧師と語る会を持 ちますので、どなたでもどうぞ。その後、聖歌隊 練習と会堂管理委員会と長老会があります。

# ◇次调の礼拝と今後の予定、お知らせ

- ・次週礼拝前に日曜学校礼拝、聖書輪読会、求道者会を、礼拝後、お茶の会を持ちます。その後、各会の例会があります。尚、牧師は礼拝後すぐに教区問安として茨木地区総会(2時)に向かいます。
- 2月 14 日(水)よりレント(受難節)に入っています。主の十字架を思い、祈り深く過ごしましょう。 3月25日(月)~29日(金)「受難週祈祷会」です。
- ・イースター礼拝に受洗希望される方は牧師まで。
- ・今週水曜日午後7時より発送奉仕を持ちます。
- ・新年度婦人会役員は、飯島さん(長)、村上さん(書記)、西尾さん(会計)です。よろしく。
- ・昨週「世界祈祷日」4名の方が出席されました。
- ・能登半島地震への献金を受付けています。封筒に 明記して献金袋にお入れくださるか献金箱へ。

## ◇教会総会の報告

・昨週礼拝後、教会総会が持たれ、新年度の計画と 予算が承認されました。新長老として、飯田さん、 茨木さん、金刺さん、金刺さん、坂田さん(アイウェオ 順)が選出されました。

#### ◇上尾富士見幼稚園より

・今週、お別れ会があり14日(木)卒園式です。また、 今週でぴよぴよ(未就児保育)が終ります。感謝。

# ◇個人消息

◇牧師予定 4~7日園お迎え・4日教団宣教会議、 5日園保護者会 6~7日祈祷会 8日通院 9日掃除 <武田より>・総会へのご出席に感謝です。教会として為すべきことを地道にやっていくことだなあと思いました。